

ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～

第12次(災害支援・復興)助成金申請書

【団体情報に関すること】

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじんぶどうのいえわたぼうし		
団体名称	特定非営利活動法人ぶどうの家わたぼうし		
代表者職名	代表理事	ふりがな	ただ たけだ なおき
		代表者氏名	武田 直樹 Ⓜ
ふりがな			
団体住所	〒710-0261 岡山県倉敷市船穂町船穂1711-6		
電話番号		F A X	
設立年もしくは活動年数	平成25年4月1日設立		
スタッフ数	有給スタッフ 10名・無報酬スタッフ 0名・ボランティア等 15名		
団体HP(あれば)			
F B ページ (あれば)	https://www.facebook.com/ぶどうの家-376996026219093/		
CANPAN登録 (原則必須)	なし・ <input checked="" type="radio"/> (星 つ) 【団体ID: 1152959779】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	オレンジボランティア 事務局	ふりがな	すぎはら れいこ
		担当者氏名	杉原 玲子
郵送物送付先住所	〒710-1312 岡山県倉敷市真備町辻田197 ぶどうの家 BRANCH オレンジボランティア事務局		
担当者電話番号 (極力携帯番号)		担当者 e-Mail	

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

申請事業の内容

事業名 (プロジェクト名)	防災ができる町は認知症になっても安心して暮せる町になる
事業概要 (事業内容を簡単に)	ぶどうの家 BRANCH を拠点として認知症に理解のあるボランティアを増やしながらいお互い様の関係を築くことで、災害が起きても認知症になっても安心して暮らせる町づくりを目指す。
活動(予定)期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日
活動(予定)場所	ぶどうの家 BRANCH
受益者数	直接受益者(500名) 間接受益者()名 ※いる場合
事業の必要性(背景)と目指すゴール(目指す状況)	
<p>2018年7月の倉敷市真備町の豪雨災害の避難所生活で、環境の変化から認知機能が低下した方達へ、専門職や認知症サポーターが傾聴のボランティアを中心に活動していた。しかし、継続した支援の必要性から2019年4月にオレンジボランティアの事務局をぶどうの家 BRANCH に開設し真備町の地域中心に活動を行っている。</p> <p>当初は、住民の方達の集まれる居場所づくりを中心に BRANCH のイベントと協働しながら以下を開催。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「味噌汁ご飯を食べる会」毎週(木)に15名～20名参加 2. 季節のイベント「お餅つき」「手巻き寿司」「ドレッシングづくり」常時20名～30名の参加 <p>オレンジボランティア主催では以下を開催した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年9月には「お月見会」約200名の参加 2. 2019年9月は「秋まつり」の実行委員と屋台を出店し約480名の参加者があった。 3. 「オレンジボランティアの集い」として「まびの水害を語る」参加者は約40名 当時高校生だった学生と、地域コーディネーターの先生のお話、音楽演奏も合わせた集いを行った。 4. 「認知症サポーター養成講座」を開催した。 オレンジボランティアとしては辻田地区10名、箭田小学校50名、いちごの家6名 地域包括支援センターと合同にて箭田12名・岡田15名、二万のサロンでの「認知症講座」8名参加 船穂中学校では「高齢者の理解について」と題し認知症ご本人と一緒に講演が中学生と保護者210名 <p>来年度は、「認知症サポーター養成講座」を受講した方達にオレンジボランティアの登録をしてもらい、仮設住宅やみなし住宅、復興住宅での、傾聴ボランティアを中心とした活動を開始したい。</p> <p>今年の活動から、住民の中で「自分達も役割を持ったボランティア活動をしたい」という声が聞かれるようになってきている。災害を受けた側、受けない側と区別することのない住民主体型の一歩通行ではないボランティア活動を行う。そのためにも、事務局機能をさらに強化したい。真備町は復興の過程にあり、地域の人と人の結びつきが強い。つながりのある地域が認知症になっても被災しても、安心して暮らせる町になるよう、オレンジボランティアが地域の方達と認知症高齢者の橋渡し役になることを目指したい。実は、認知症の問題は高齢者だけの問題ではなく、子どもや若い親たち世代にも関係しており、まちづくりにもつながっている。来年度は、町の方々にオレンジボランティアが根づく年にしたい。</p>	
事業の実施内容	
・どのようなことをいつ(回数等)やるのか	

活動内容

1. 正しい認知症への理解者を増やす。
 - ・認知症サポーター養成講座 5回/年（5・7・9・11・12月）
開催場所：ぶどうの家 BRANCH、小中高等学校、事業所やお店、みなし住宅・仮設住宅、復興住宅
 - ・オレンジボランティア養成講座 3回/年（4・8・10月）
 - ・眠くならない勉強会へのお手伝い（毎月1回）
2. オレンジボランティア登録やコーディネート
 - ・オレンジボランティアの登録開始（4月）・オレンジの集い（6・12月）報告会（8・3月）
3. 居場所づくり
 - ・味噌汁ご飯を食べる会、健康教室のお手伝い（毎週）
 - ・認知症カフェ・ふれあいサロン（2回/月）・女子会（1回/月）
4. イベント開催
 - ・講演会、映画上映会、秋まつり、RUN 伴、新年会
5. 各団体との連携取り組み
 - ・倉敷真備支え合いセンター、お互いさまセンターまび、地域支援センターとの連携
 - ・真備事業所連絡会への参加
6. BRANCH 便りの発行
 - ・チラシや Line での毎月の発行 ・SNS での活動報告

事業の実施体制

- ・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

1. ぶどうの家 BRANCH にて行事イベントを開催し住民の声を拾い上げる。
2. 倉敷市真備支え合いセンター・真備高齢者支援センターと在宅の高齢者や仮設・みなし・復興住宅の住民へ協力や支援体制づくり

事業実施後の展望

- ・助成期間後も活動を継続する場合はその内容や展望

- ・オレンジボランティアの事務局と、お互いさまセンターまび、倉敷市真備支え合いセンター、地域生活支援センターとの協働し、情報共有できることでボランティアが必要な方々への支援が広がる。
 - ・オレンジボランティア登録での活動には高齢者も多いため、「認知症サポーター養成講座」を受講し、住民に認知症へ理解を深めてもらいたい。
 - ・同じ体験を共有できる住民同士のボランティア活動で、みなしや仮設、復興住宅に情報が届かない人たちへ必要な支援につなげたい。
- 今後もオレンジボランティアを継続発展させていきたい。

その他

- ・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

倉敷市では現在3万人の認知症サポーターが誕生している。災害で孤立し意欲のない方達が、同じ被災体験をした方へのオレンジボランティアの支援できれば、サポーターの活動の場ができ、自らの活躍により元気を取り戻すきっかけにもなる。その取り組みがモデルケースとなり、災害に関心が薄い地域や、県内外の方達にも、今後起こりうる対策として提案できるようにしたい。

※この用紙に収まらない場合は、別紙企画書など添付ください。ただし、概要についてはこのページ1枚にまとめてください。

実施予算 ※価格の根拠が分かるものなど必要に応じて添付ください。

※収入と支出の合計をあわせてください。【他助成金で確定しているものも収入に入れてください】

1) 本事業の収入

費 目	金 額	備 考
ももたろう基金（助成申請額）	500,000	
自己資金	857,000	
合 計	907,000	

2) 本事業の支出

費 目（必要な場合算出根拠）	金 額	備 考
人件費（アルバイト代）40,000/月 ×12 か月	480,000	
イベント費用（秋まつり・映画上映・講演会）3回	300,000	
認知症カフェ開催 2,000/月 ×12 か月	12,000	10万×3
オレンジボランティア養成講座（講師謝礼・交通費）3回	30,000	1万×3
オレンジボランティア専用携帯	30,000	
オレンジボランティアの集い・報告会（冊子・会場費）	15,000	
印刷代（パンフレット・チラシ）	20,000	
備品（椅子・テーブル・看板等）	20,000	
合 計	907,000	